

4者相互協力協定事業「健康増進プロジェクト」、小学校と連携して体力測定を実施

12月16日（火）、北海道の将来を担う子どもたちの成長を支援するために相互協力協定を結んでいるJAグループ北海道、（株）北海道フットボールクラブ、北海道教育大学、北海道教育委員会による4者連携事業では、「健康増進プロジェクト」として、体力測定やボールゲーム体験を恵庭市立松恵小学校（安部英志校長）において実施した。

本プロジェクトは、子どもたちのスポーツや遊びの習慣化や食事を含めた望ましい生活習慣の定着を図ることを目的としており、協力校である同校において、子どもたちの体力、及び、日常生活における運動習慣や食習慣の実態等についての調査・分析を行うこととしている。

この日は、小学校の体育の授業と連携し、光電管センサーを使った体力・運動能力測定システム（Nチャレンジ）や簡単に組み立てるボールゲームを子どもたちに体験してもらった。運営者として、コンサドーレ札幌の榊翔太選手や北海道教育大学の学生8名も参加した。

Nチャレンジでは、榊選手が手本を見せると、子どもたちは歓声をあげて喜び、プロサッカー選手との交流を楽しむとともに、同選手の走り方を真似てタイムを縮めようと何度も練習する姿が見られた。

ボールゲームは北海道教育大学の学生の指導で進められ、誰でも簡単にできる運動に、1年生から6年生まで、どの子どもも楽しみながら汗を流していた。

この他にも4者では、同校の児童に、運動習慣や食習慣に関するアンケートや万歩計に取り組んでもらい、今回の体力測定等とあわせて結果を分析し、今後の子どもたちの健康増進に資する取組を進めるうえでの参考にすることとしている。

